■木村一男氏インタビュー調査記録

3 度の世界デザイン会議を振り返る―ICSID'73 京都を中心に

［日時］2019 年 8 月 29 日（木）14:30～16:30
［場所］静岡文化芸術大学・黒田研究室
［出席］木村一男／青木史郎、黒田宏治

＊木村一男：1934 年大阪市生まれ。1958 年東京藝術大学美術学部工芸計画部卒業、日産自動車（株）入社。1972 年日産自動車（株）退社、世界インダストリアルデザイン会議実行委員会事務局長就任（～74 年）。以降、(社)日本インダストリアルデザイナー協会(JIDA)事務局長、(財)国際デザイン交流協会常務理事、(株)国際デザインセンター代表取締役専務、名古屋学芸大学メディア造形学部長などを歴任。

［目次］

●WoDeCo の頃の記憶
●ICSID '73 京都会議に向けて
●ICSID '73 京都会議運営の思い出
●３度目の世界デザイン会議

＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋

●WoDeCo の頃の記憶

1960 年に東京で日本で初めての世界デザイン会議 WoDeCo (World Design Conference) が開催されました。大手町の産経ホールを会場に 5 月 11 日から 16 日までの 6 日間の国際会議で、世界 27 カ国から 227 名の参加があったとされています。建築家の坂倉準三さんが実行委員長で、事務局長が浅田孝さん、私も事務局の手伝いをしていました。私は、1958 年に東京藝術大学を卒業して、日産自動車（設計部造形課）に入社しましたが、会社が午後は会議の手伝いをしてもいいと言ってくれたんです。

事務局は東京・六本木にあった坂倉さんの実験住宅を使わせてもらって、今思えば畳の上に靴であがるという妙な経験をしました。そこで事務局業務といろいろな委員会をやっていました。そこに瀬底恒さんという事務局次長がおられ、ハウス＆ガーデン誌の編集の経験があって英語はペラペラ。すごい方でした。覚えているのは、仕事で遅くなるでしょ、「鍵をそこのミウク・バックスに入れてくださいね」と、ネイティブな英語で発音するんですよ。初めは発音が聞き取れなくてね。野口瑠璃さんも事務局におられて、瀬底恒さんのよきアシスタントとして活躍されてました。

あの会議は、デザイン分野でも建築の人、グラフィックの人が中心でしたね。建築では丹下健三さん、菊竹清訓さんとか、グラフィックでは亀倉雄策さん、河野鷹思さんなど、当時の中心的なメンバーが多く参加していました。あの時は JIDA（日本インダストリアルデザイナー協会）が会議開催には反対していたので、ID 系は少なかったな。小杉二郎さんが理事長でしたが、「国内をまず固めるのが先ではないか」として、組織としては参加を拒否しました。ただ個人として参加はいいとされました。そこで栄久庵憲司さんは、浅田さんから ID 分野を固めて欲しいと頼まれて、その組織づくりに力を入れていました。個人デザイナーや企業など ID の人たちに声を掛けました。当時はデザイン部門が、日産で 15 人、松下でも 30 人、そんな時代でしたね。

でも終わってみると、たいした国際会議でした。あの時代にあれだけのことができたということは。会議運営の末席に携わっただけでしたが、今振り返ると、ともかくやったという感じですよ。1973 年の ICSID 会議（世界インダストリアルデザイン会議）と違って、国際組織の総会・会議を誘致したのではなく、日本のデザイン界が独自に企画し開催したのです。会議参加者にはデザイン分野の蒼々たる人たちが揃っていました。ハーバード・バイヤー、トーマス・マルドナルド、ソール・バス、ミッシャ・ブラック、ビクター・パパネクなど、すごい顔ぶれでした。戦後日本のデザインの国際デビューっていう感じだったな。ともかくデザインの世界会議は初めてで、デザインばかりか、本格的な国際会議という中でも早かったと思います。

私はそのときのポスターを今も持っています。シルクスクリーンで刷られたもので、河野鷹思さんデザインのマークを、田中一光さんがアレンジして、さまざまな色でつくられたものです。会議場に貼られて、すごく綺麗でしたね。当時はカラー印刷なんて考えられなかった時代でしたから、色鮮やかなポスターは本当に新鮮でした。当時の会議資料はみんなタイプ印刷、コピーは青焼き。海外と連絡とるのも、FAX はなし、もちろんＥメールもない。全部手紙です。だから出しても 2～3 週間は返事はこないという状態でした。

あの時、デザイン系の学生たちがデザイン学生連絡会（デ学連）をつくって、学生たちの会議を計画し実現させました。豊島公会堂で、ソール・バスなど海外のデザイナーがきて、会場は超満員でした。WoDeCo 開催は、専門家の会議だけではなく、こうした若い世代への広がりもありました。そういえば会場の産経ホールが狭くて、参加したい人はたくさんいて、なぜ入れないんだとかもめたこともありましたね。

●ICSID’73 京都会議に向けて

最初に ICSID（国際インダストリアルデザイン団体協議会）に日本開催を提案したのが 1965 年のウィーン総会。JIDA としてはかなり早い時期に、総会・会議を日本でやりたいと名乗りをあげています。

ICSID 総会・会議は 2 年に 1 回の開催で、1967 年のオタワ総会では、JIDA は正式に 1971 年に日本で総会・会議を開催したいと提案しました。本当は大阪万博が終わってすぐにやろうと考えていました。ただスペインがぜひ 1971 年にやりたいと言ったので、そこは譲って 1973 年開催になった経緯がありました。

私が初めて ICSID 会議に参加したのは 1969 年ロンドン総会でした。あのときはエリザベスホールで開会式で、騎乗兵がラッパを吹いて開会を告げていました。すごく権威がありましたね。歓迎パーティーはランカスターハウスという離宮であって、私たちがタクシーでランカスターハウスへと言ったら、運転手にお前らが行くような場所じゃないと言われて、招待状を見せて、なんとか行ってもらったことを覚えています。ナッシュ・ハウスでの総会で 1973 年の日本開催が正式に決まりました。あとでクレソニエール事務局長から、あくまで仮決定だからと言われましたが。

そこが私の運命の分かれ道になったわけです。大会の実行委員長には会議誘致を牽引してきた JIDA 理事長でもある栄久庵さんに決まりました。そして、栄久庵さんから実行委員会の事務局長やってくれと頼まれ、それがきっかけになって私は日産自動車を辞めることになりました。

ICSID の会議は、総会と会議がセットで、総会は東京で、会議は京都でやることにしました。総会の会場は京王プラザホテル。1971 年開業で、まだできて間もない時期でした。京王プラザとしても初めての国際会議で、大変協力してくれました。京都は宝ヶ池の京都国際会館を使いました。1966 年開館で、あれもまだ新しかったな。ICSID’73 KYOTO＝世界インダストリアルデザイン会議は、会議場での討議＝コングレス・ホールに加えて、会議参加者の情報発信の場であるコングレス・プラザ、京都の街全体を会議場と考え、市民との交流をつくろうとするコングレス・シティを組み合わせた構想でした。コングレス・プラザでは小さな FM 放送局をつくって放送もしました。コングレス・シティでは 700 台のカナリア・イエローの自転車で市内拠点と会議場をつなぐ試みをやりました。

メインテーマの「人の心と物の世界」は栄久庵さんの提案です。基調講演は、京都大学教授で生態学者の梅棹忠夫さんでした。梅棹さんは、あまり講演は引き受けない方なんですが、川添登さんあたりが説得してくださったのではないかな。講演の素案を三つ提案され、それから講演の構想をまとめられました。「日本文明はクジラである」から切り出され、そして「物の心」にふれ、「無用の用」は次の時代のデザインになるのではないか、とまとめられました。73 年に提起されたこの考えは、いまの時代どう受け止められるのか、考えさせられるものがあります。

シンボルマークは亀倉雄策さんのデザインです。亀倉さんからは、マークを切っても部分的に使用しても構わないとのことだったので、いろいろバリエーションを工夫して展開したことが懐かしく思い出されます。それは亀倉さんも「なかなかうまく使ってくれたね」と喜んでくださいました。

ICSID’73 KYOTO 開催に関連して、早い時期からデザインイヤーという話はありました。あまり知られてないようにも思いますが、WoDeCo 開催に関連して 1960 年にも国でデザインイヤーをやっています。あの方式を引き継いでやろうじゃないかと、当然の流れでそうなりました。1960 年には、東急デパートでのデザイン展覧会や、さまざまな催しをやっています。それをデザインイヤーと呼んだんです。あれから約 10 年後だから関係者の間に記憶が残っていたわけで、僕も 1960 年の会議では事務局の一員だったわけですから。だから国際会議をやるなら協賛でいろいろ展覧会やろうとかの発想はありました。

1973 年には最初からその発想が関係者に共有されていました。国際会議ばかりでなく、東京・京都のほか、全国にも広げるといった感じでしたね。行政の方も自然とその流れでついてきてくれました。それで結果的に通産省の審議会答申にもすんなりと載ったので

はないかと思いますね。1960 年の経験があったから、1973 年のデザインイヤーは、その流れでうまく進んでいった。イヤー独自のマークや事務局もつくられ、全国的なスケールで展開されました。

●ICSID’73 京都会議運営の思い出

自転車は新しい試みでおもしろかったなあ。ただトラブルもあって、京都の市役所の前で出発式をやることになっていたら、市長は来る、NHK の朝の番組で中継することになっていたら、朝になってそのための自転車を積んでいたトラックのバッテリーがあがって動かなくなってしまいました。近くの京都ホテルのデポの自転車を運べとなって、どうやらなんとかなりましたが、冷や汗ものでした。心配したのは事故ですね。ともかく事故だけはないようにと、タクシー組合にお願いに行きました。あの頃はタクシーの運転は荒かったから、黄色の自転車が走るから気をつけてほしいと。警察や自転車業組合、地元のサイクリングクラブなど、あちこちにお願いに訪ねました。事故が無く無事で本当によかったです。

会議運営で困ったのは参加者の食事が足りなくなったことですね。1 日目はキッコーマンが幕の内弁当を提供してくれてうまくいったんです。2 日目は昼食をブッフェ形式にしました。そうしたら、はじめの方の人はついつい余計に取っちゃう。ちゃんと 1800 人分は用意したのに、最後の方はなくなってしまったのです。すると参加者がお皿をフォークでチンチンと叩き出す始末。ともかく謝って、食堂に頼んで何か出してもらいました。それで 3 日目は、一人前ずつ盛ることにしたら、余りました。

閉会式では、最後に栄久庵実行委員長が「これで国際会議を終わります」と閉会宣言をして、そのとたんに照明をぱっと消して、ステージにスポットをあて、ドーンと太鼓の音が一発、そしてトントントントンと和太鼓のパフォーマンスが始まりました。鬼太鼓座の登場です。ちょうど鬼太鼓座が売り出すときでした。

3 日目の夜はサヨナラパーティー、食べるものを山に積んどけと指示が出ました。何かないかと思案して、稲荷ずしと蕎麦なら京都中で集まるかもしれないと駆け回って、なんとか問題なく終えることができました。どうやらパーティーも終わって、参加者をみんなバスで送り出し、事務局だけ残って終わったと思ったら、がくってなりましたね。事務局のみんなは三日三晩、会場でごろ寝でしたから。

こんなトラブルもありました。会議で使った自転車は終了後に近畿放送が買い取るという話でした。それが土壇場になって、話が流れてどうしようと思いました。700 台の自転車は実行委員会で買ったんです。自転車工業会にお願いして、特別色の自転車を各社が用意してくれました。それを終わったら急遽売らなくてはならなくなったわけです。会議の参加者とか市民が会議のマーク付きの自転車を記念に買ってくれました。私も 2 台買いました。

私は裏方だったんで、会議はぜんぜん聞いてないんです。開会式を後ろから覗いてたら、会館の業務部長の湯浅叡子さんが「開会式が始まれば 40%はすんだのと同じですよ」と言われたので安心してたのです。翌日の昼飯のトラブルがあるなど思いもよらなかったな。この会議では企画や運営に会議のプロは一切入れませんでした。入れたのは同時通訳だけです。会議の企画、準備、運営、制作物の作成、参加案内、広報などに加え、バンドの手配などまで、全部われわれ事務局でやりました。

会議が終わったら実行委員や関係のみんな大成功と言ってくださいました。ところが事務局へは会議が終わってから毎日のように請求書が来るわけ。12 月までが支払いの一つの節目になるのですが、支払いには苦労しましたね。国から 1800 万円の補助金をいただきました。あのときの 1800 万円は大きいです。ただ国から金をいただくにあたり、手続きがいろいろ大変でしたけど。

いま振り返ると会議の開催の時期が 2～3 ヶ月後だったら駄目だったろうと思います。会議は 1973 年の 10 月 10～12 日でしたが、会議の直前に中東で戦争が起こって、そのあとオイルショックが始まったわけですから。本当にすべりこみセーフという感じでした。

●３度目の世界デザイン会議

それから 1989 年にもう一度 ICSID 会議とデザインイヤーがあるわけです。今度は名古屋から動きが始まりました。中日新聞に ICSID 会議に詳しい企画担当の小山太郎さんがおられて、何度も ICSID 会議に参加されておられるのです。その方が市制 100 周年の記念イベントにぜひ名古屋でと、名古屋市に勧めてくれたのがきっかけです。1985 年の 5 月頃だったかな。その年の 9 月にワシントンで総会があるから、そのときにプロポースしないと 1989 年開催には間に合わないというタイミングでした。

そのとき私はまだ大阪の国際デザイン交流協会（国デ協）にいましたが、名古屋市の人が来られ、会議の誘致を頼まれました。それで、月火水は大阪で国デ協の仕事、木金土は名古屋で ICSID 会議誘致の仕事と、半分半分でやることになりました。それから名古屋市が中心となり愛知県、名古屋商工会議所も動き始めました。ワシントン総会には、市からは助役、県は商工部長、会議所は副会頭が来られて、それで私がプレゼ

ンテーションをして、なんとか誘致が総会の承認を得ました。あのときは競合相手はユーゴスラビアのリュブリアナで、投票結果は 13 票差でした。

そのときにワシントンでは IDSA（アメリカ・インダストリアルデザイナー協会）がかなり大きい規模のデザインの展覧会をやっていました。名古屋からの参加者がそれを見て、おもしろいじゃないかということになり、それで ICSID 会議に加えてデザイン博覧会の構想に発展していきました。あの当時は横浜市、福岡市などが、市制 100 周年ということで、博覧会などの記念行事を検討していた時期です。当初、名古屋市は交通博覧会を考えていたようです。名古屋圏にはトヨタはじめとした自動車、航空機、船舶、鉄道車両などのメーカーがありましたから。それが急遽デザイン博覧会ということになり、はじめは市会議員から「デザインってなんだ」と問われ、名古屋市の担当責任者や栄久庵さんなどは説明に追われていましたね。

1989 年の ICSID 会議の実行委員長はトヨタ自動車のデザイン部長だった諸星和夫さん、私はデザイン会議運営会の事務局長になりました。栄久庵さんはデザイン博覧会のプロデューサーも務められました。博覧会の組織は会議とは別の組織でした。私はそのときはまだ国デ協にも半々で席はありました。国デ協を辞めたのは会議が終わって名古屋にデザインセンターをつくる話になってからです。結局、国デ協には 1981 年の設立から 8 年 8 ヶ月おりました。大阪府、大阪市、大阪商工会議所、地元企業などからの出向者で構成された組織で、デザインの国際コンペや展覧会など国際的な多彩な事業をやりました。

3 回の国際会議、デザインイヤーを振り返ると、1960 年が原型になって、1973 年に組織だった取り組みで規模が大きくなり、それが 1989 年につながっていった。そんな感じがします。1989 年のときは、もちろんデザイン・イヤー事業は 1973 年を上回る規模で全国的に展開されました。参加事業は全国で 401 件です。ちょうどバブルがはじける直前で、資金的にも余裕がありましたね。ICSID 会議には、名古屋市、愛知県ばかりか、トヨタ自動車など地元企業からも多くの協賛金をいただきました。これも結果的に経済情勢からぎりぎりのタイミングでしたね。

そうですね、３回の国際会議を比較してみると、もちろんそれぞれの時代背景は違いますけど、一番おもしろかったのは1973年の京都会議だな。私は1960年、1973 年、1989 年と 3 回のデザインの国際会議の企画運営に携わったけど、1989 年はスケールが大きくなりすぎちゃったから、正直なところ自分が頑張ってやったという実感が持ちづらかったと思います。世界中から 3300 人もの参加者があり、セッションの数も多く、内容的にも高かったです。運営も県や市、企業からのスタッフが頑張ってくださって、とてもスムーズに進みました。

一方、名古屋市内 3 会場で展開されたデザイン博覧会は、135 日の会期中に約 1500 万人もの人を集め、名古屋市会は「デザイン都市宣言」をし、また名古屋市内の環境整備も一挙に進められるなど、名古屋には大きな影響を与えました。そして、デザインの国際会議・博覧会がきっかけで、1992 年に名古屋には国際デザインセンターが設置されました（開館は 1996 年）。その後名古屋では、1995 年に世界インテリアデザイン会議（IFI 会議）、2003 年に世界グラフィックデザイン会議（Icograda 会議）も開催され、名古屋市は 2008 年にデザイン都市としてユネスコ創造都市ネットワークに加盟認定されています。

そういえばあのときは、名古屋市には ICSID 会議のために国際会議場を新たにつくっていただきました。それで国内外から 3 千人を超える参加者を集めることができました。会議場の整備にあたり、名古屋市の西尾市長から「木村さん何人集めるつもりですか」と聞かれ、3000 人は集まると答えました。そんな経緯もあって 3012 人収容の大ホールが生まれたわけです。

（文責：黒田宏治）

インタビュー風景（木村一男、青木史郎）

ICSID’73KYOTO 資料を手に当時を振り返る

＊文中の JIDA、ICSID、IDSA、IFI、Icograda の正式名称は次の通りです。

JIDA：Japan Industrial Designers’Association／公益社団法人日本インダストリアルデザイナー協会（当時は社団法人）

ICSID：International Council of Society of Industrial Design／国際インダストリアルデザイン団体協議会

IDSA：Industrial Designers Society of America／米国インダストリアルデザイナー協会

IFI：International Federation of Interior Architects/Designers／国際インテリアアーキテクト／デザイナー団体連合

Icograda：International Council of Graphic Design Associations／国際グラフィックデザイン団体協議会